

「日々の理科」(第 2555 号) 2021, -7, 12 「クロームブックを活用した台風模型(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「クロームブック」は、5年生の子どもたちにとっても非常に使い勝手が良いようだ。実験室にも無線LANが配備されているので、インターネット接続も可能で、活動に最適な画像を短時間で探し出すことができる。



少し前まで、このような光景は、コンピュータールームでしか見られなかった。しかし、今では実験室や各教室でも普通に見られるようになった。私のような「昭和の教師」にとっては、実に目をみはる光景と言える。



この活動の最大の目的は、「台風の構造を三次元的に理解すること」である。しかし、台風本体が一番難しい。そこで、「まずは台風以外の雲」から製作して、作業に慣れるように指示を出した。基本的には、台紙(地図)に糊(スティック糊が良い)を塗って、脱脂綿を貼っていく作業の繰り返しである。



子どもたちが自然と興味を持ったのは、梅雨前線やジェット気流による細長い帯状の雲である。これは、脱脂綿を「引き伸ばす」ようにして貼っていくとうまく表現できる。



クロームブックの良い点は、このようにA型に立てても使えること、それにバッテリーの持ちが良い点だ。狭い実験机や教室机でも、効率的に作業ができる。



子どもたちが最も力を入れていたのが「台風目の部分」だ。鉛筆に脱脂綿を巻き付けてから貼ったり、楊枝を使って目を表現するなどの手法がある。目がはっきりすると、急に「台風らしく」見えてくる。